

日本のポンペイ

〔 渋川市の遺跡を探索 〕

No.17

『中ノ峯古墳』

中ノ峯遺跡は、子持地区の北牧に鎮座する若子持神社の北、黒井峯遺跡から西に約300mの場所にある円墳です。6世紀中頃に噴火した榛名山から噴出した大量の軽石にすっぽりと覆われていたため、昭和54年の土地改良工事で発見されるまで、古墳の存在は知られていませんでした。

墳丘の直径は9m、頂部は直径7m、高さは1m前後の小さな古墳です。全長約5m、幅約9m、高さ約1mで自然石を用いた小規模な横穴式石室があり、石室の入口は南側に開いています。

石室の中には、人骨5体分(男性2体・女性1体・乳幼児2体、乳幼児の性別は不明)が散らばった状態で見つかったほか、副葬品は直刀2、刀子2、鉄鏃9、留金具3、勾玉等の玉類28点などが出土しました。5人の被葬者は、一度にはなく数回にわたって埋葬されていますが、特に注目されるのは、噴火で古墳が埋没した後にも、石室の入口を探しあて、追葬が行われていることです。これは、古墳の周囲の軽石の堆積が石室の前だけ乱れていて自然堆積の状態ではなかったことから、追葬のために掘り返されたと考えられます。黒井峯遺跡をはじめ広範囲が軽石で埋めつくされた大災害の後に、再び同じ場所で埋葬しようとして戻ってきた人たちがいたのです。

なお、現地は関係者の協力を得て復元整備され、県の史跡に指定されています。



(市文化財保護課)